



2020年3月期

第2四半期決算説明会

2019年11月19日

株式会社ジャムコ



技術のジャムコは、 士魂の気概をもって



- 一、夢の実現にむけて挑戦しつづけます。
- 一、お客様の喜びと社員の幸せを求めていきます。
- 一、自然との共生をはかり、豊かな社会づくりに貢献します。

- この資料に掲載されている情報のうち歴史的事実以外のものは、発表時点での入手可能な情報に基づく当社の経営陣の判断による将来に関する見通しであり、経済動向、為替レート、市場需要、税制や諸制度に関するさまざまなりスクや不確実な要素を含んでおります。実際の業績はこれらの見通しとは異なる結果があり得ることをご承知おきください。
- この資料における数値について、記載金額は、表示桁未満を切捨てしており、増減率(%)は、表示桁未満を四捨五入して作成、表示しております。
- 本資料を(株)ジャムコの許可無く転載・複写することを禁じます。又、本資料を使用することにより生じたいかなる損害について(株)ジャムコは一切責任を負いません。

Contents

- | | |
|---------------------|--|
| SECTION
1 | 2020年3月期
第2四半期決算の状況 |
| | 04 グループ連結P/L
05 連結経常利益の前年同期比差異要因
06 セグメント別 売上高・経常利益①(前年同期比)
07 セグメント別 売上高・経常利益②(前年同期比)
08 グループ連結B/S
09 グループ連結 試験研究費/設備投資額/減価償却費
10 グループ各社の状況 (2020年3月期/上期)
11 通期見通し |
| SECTION
2 | 重要項目と課題進捗 |
| | 13 中期ビジョン
14 中期の課題と対応
15 中期課題の進捗①
16 中期課題の進捗②
17 中期課題の進捗③ |

JAMCO CORPORATION

2020年3月期
第2四半期決算の状況

- 04 | グループ連結P/L
- 05 | 連結経常利益の前年同期比差異要因
- 06 | セグメント別 売上高・経常利益①(前年同期比)
- 07 | セグメント別 売上高・経常利益②(前年同期比)
- 08 | グループ連結B/S
- 09 | グループ連結 試験研究費/設備投資額/減価償却費
- 10 | グループ各社の状況 (2020年3月期/上期)
- 11 | 通期見通し

SECTION

1

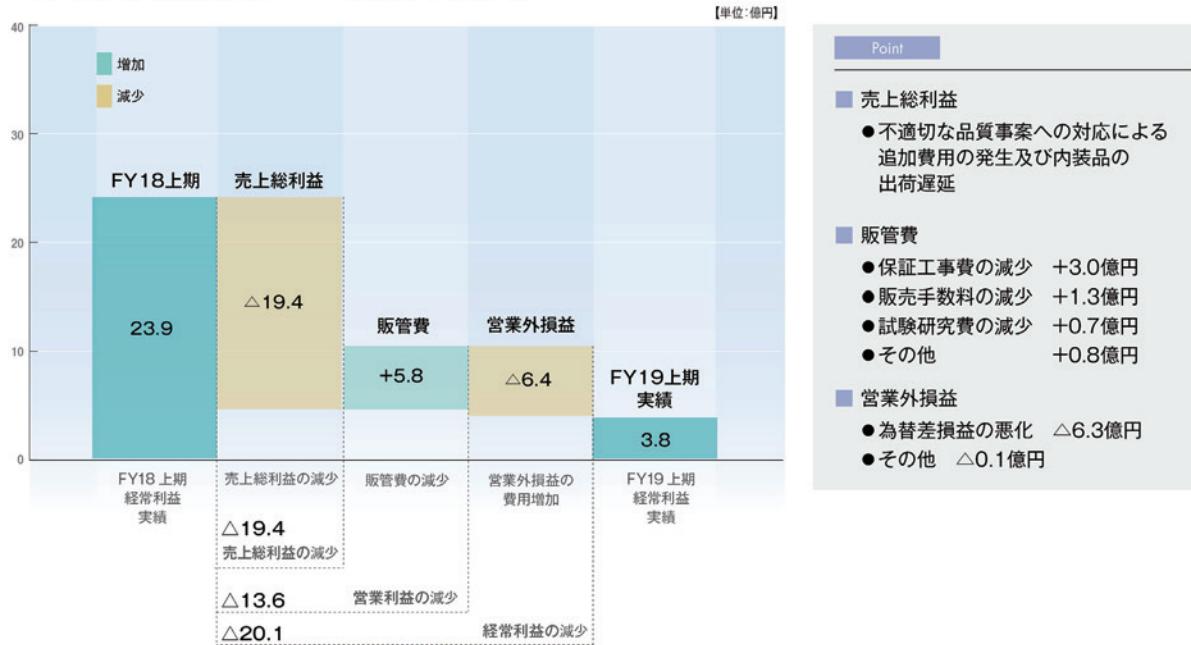
【単位:百万円】

	FY18上期 (実績)	FY19上期 (実績)	前年同期比 (増減)
売 上 高	40,354	40,554	200
売 上 総 利 益	6,612	4,663	△ 1,949
販 管 費	4,459	3,878	△ 580
営 業 利 益	2,152	784	△ 1,368
営 業 外 損 益	242	△ 400	△ 642
経 常 利 益	2,394	384	△ 2,010
税 引 前 利 益	2,268	127	△ 2,140
親会社株主に帰属する 四 半 期 純 利 益	1,430	73	△ 1,357
1株当たり四半期純利益 (円)	53.32	2.73	—
売 上 為 替 レ ー ト (円/US ドル)	108.73	109.68	—

グループ連結 P/L (前年同期比)

- 売上高は、前年同期 403 億円に対し、当期実績は 405 億円。
- 経常利益は、前年同期 23.9 億円に対し、当期実績は 3.8 億円。
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期 14.3 億円に対し、当期実績は 0.7 億円。
- この結果、1 株当たり四半期純利益は 2.73 円。
- 2019 年度上期の単体の売上平均為替レートは@ 109.68 円 / ドルとなり、2018 年度上期の@ 108.73 円 / ドルに対して 95 銭円安。

■ 前年同期比 △20.1億円



連結経常利益の前年同期比差異要因

- 売上総利益については、内装品事業・シート事業における不適切な品質事案への対応に伴い、安全性確認の技術検証等の調査費用、一時的な生産停止への対策として生産拠点を振り替えた費用、出荷遅延をリカバーするための費用などの追加が発生したことと、内装品では一時的な出荷遅延の発生により売上高が減少した影響などにより 19.4 億円減少。
- 販管費については、保証工事費や販売手数料及び試験研究費の減少などによりプラス 5.8 億円。
- 営業外損益については、為替相場が 2019 年 3 月末 111 円台から 9 月末 107 円台まで円高に進んだことによる為替差損益の悪化により、マイナス 6.4 億円。

2020年3月期 第2四半期決算の状況

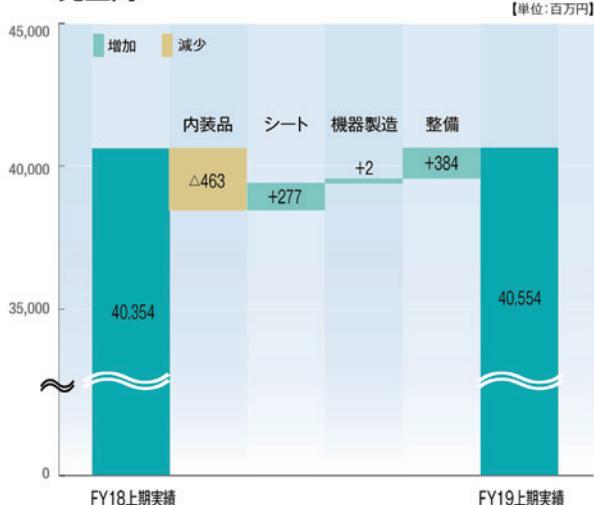
【単位：百万円】

	売上高			経常利益		
	FY18上期 (実績)	FY19上期 (実績)	前年同期比 (増減)	FY18上期 (実績)	FY19上期 (実績)	前年同期比 (増減)
航空機内装品	27,530	27,066	△ 463	3,083	955	△ 2,128
航空機シート	6,960	7,238	277	△ 674	△ 728	△ 53
航空機器製造	2,656	2,658	2	△ 62	△ 124	△ 62
航空機整備	3,205	3,590	384	47	283	235
その他の	0	0	0	0	△ 1	△ 2
合 計	40,354	40,554	200	2,394	384	△ 2,010

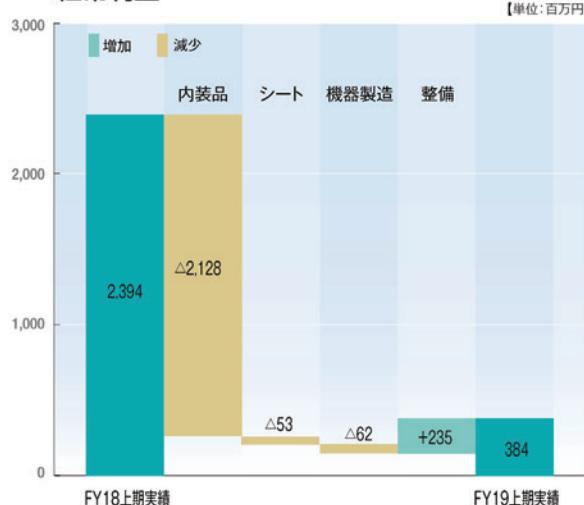
(注)「その他」はオレンジジャムコの事業を含んでおります。

2020年3月期 第2四半期決算の状況

売上高



経常利益



Point

- 内装品は不適切な品質事案への対応により、一時的に製品の出荷に遅延が発生
- シートは「Venture」の出荷が進み増加
- 整備はエアライン向けの機体整備及び装備品整備が堅調

Point

- 内装品は売上高減少の影響、品質事案への対応による追加費用の発生と為替差損益の悪化
- 整備は売上高増加による影響や採算性向上

セグメント別 売上高・経常利益 - ② (前期比)

■ 売上高

- 内装品セグメントは、4.6億円減少。
主な要因は、品質事案への対応に伴い一時的に製品の出荷に遅延が発生したことによるもの。
- シートセグメントは、2.7億円増加。
主な要因は、ビジネスクラス・シート「Venture」の出荷が進んだことによるもの。
- 機器製造セグメントは、前年同四半期並み。
- 整備セグメントは、エアライン向けの機体整備及び装備品整備が堅調に推移したことにより、3.8億円増加。

■ 経常利益

- 内装品セグメントは、21.2億円減少。
主な要因は、品質事案への対応に伴い発生した製品の出荷遅延により売上高が減少した影響や、品質事案への対応による追加費用などに加え、為替差損の発生などによるもの。
- シートセグメントは、品質事案の対応として一時的に株式会社宮崎ジャムコにおける生産を停止し、生産拠点の振替を行ったことに伴う追加費用や、為替差損の発生などにより、0.5億円悪化。
- 機器製造セグメントは、収益性の良い一部プログラムの出荷が繰り延べられたことや為替差損の発生などにより、0.6億円悪化。
- 整備セグメントは、売上高の増加や採算性向上の取組みにより2.3億円増加。

【単位：百万円】

科 目	FY18 末 2019年3月31日現在	FY19 2Q 末 2019年9月30日現在	増 渏	科 目	FY18 末 2019年3月31日現在	FY19 2Q 末 2019年9月30日現在	増 減
(資産の部)							
流動資産							
現金及び預金	5,822	3,872	△ 1,950	支払手形及び買掛金	8,821	9,923	1,101
受取手形及び売掛金	22,571	24,179	1,608	電子記録債務	8,910	9,067	157
棚卸資産	48,727	53,668	4,941	短期借入金	17,404	25,709	8,305
その他流動資産	3,480	4,748	1,267	1年内返済予定の長期借入金	2,300	2,100	△ 200
流動資産合計	80,602	86,469	5,867	工事損失引当金	3,781	3,713	△ 67
				その他流動負債	18,339	15,443	△ 2,896
				流動負債合計	59,556	65,956	6,399
固定資産							
有形固定資産	13,988	13,928	△ 59	固定負債			
無形固定資産	1,750	1,809	59	長期借入金	3,700	3,600	△ 100
投資その他の資産	6,640	6,589	△ 50	その他固定負債	9,008	9,195	186
固定資産合計	22,378	22,328	△ 50	固定負債合計	12,708	12,795	86
資産合計	102,980	108,797	5,816	負債合計	72,265	78,751	6,486
(純資産の部)							
				純資産合計	30,715	30,045	△ 669
				負債純資産合計	102,980	108,797	5,816

Point

- 棚卸資産は内装品の材料・仕掛品が出荷遅延に伴い増加
- 棚卸資産等増加により借入金が増加

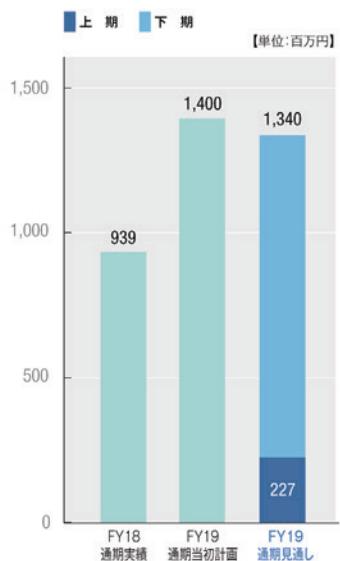
■ 自己資本比率 29.3% → 27.1% 2.2ポイント低下

グループ連結 B/S

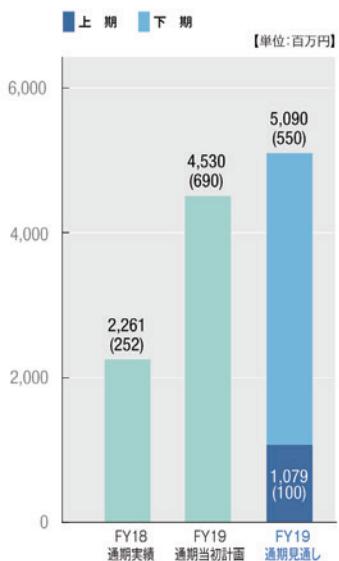
- 流動資産は、現金及び預金の減少があったが、内装品の棚卸資産が出荷遅延に伴い増加したことなどにより 58 億円増加。
- 流動負債は、棚卸資産の増加などにより主に借入金が増加し、63 億円増加。
- 純資産は、6 億円減少。
- この結果、自己資本比率は 29.3%から 27.1%へと 2.2 ポイント低下。

2020年3月期 第2四半期決算の状況

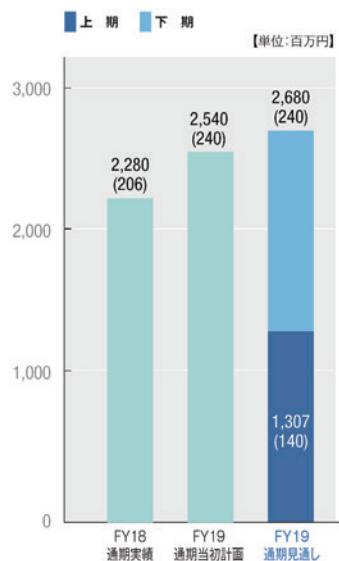
試験研究費(連結)



設備投資額(連結)



減価償却費(連結)



※設備投資には()内の全リース物件を含む。

※()内はリース資産分。

(注1)当初計画とは、2019年5月10日の決算発表時の業績予想数値です。
 (注2)通期見通しとは、2019年11月8日の決算発表時の業績予想数値です。

グループ連結 試験研究費／設備投資額／減価償却費

- 試験研究費は、上期約2億円の計上に留まり、進捗はスローであるが、元々下期偏重の計画。内容は、スタンダード・シートの他機種への展開や内装品軽量化のための新材料の開発など。
- 設備投資額については、上期10億円で、主な内訳は、IT関連と製造のための金型を含めた機械工具備品関連。
下期については、主に、設計業務の効率化、システム改修等へのIT投資や内装品における777X・A350関連の金型や、シートモックアップなどを予定。
- 減価償却費は、上期13億円、下期13億円で推移する予定。

【単位：百万円】

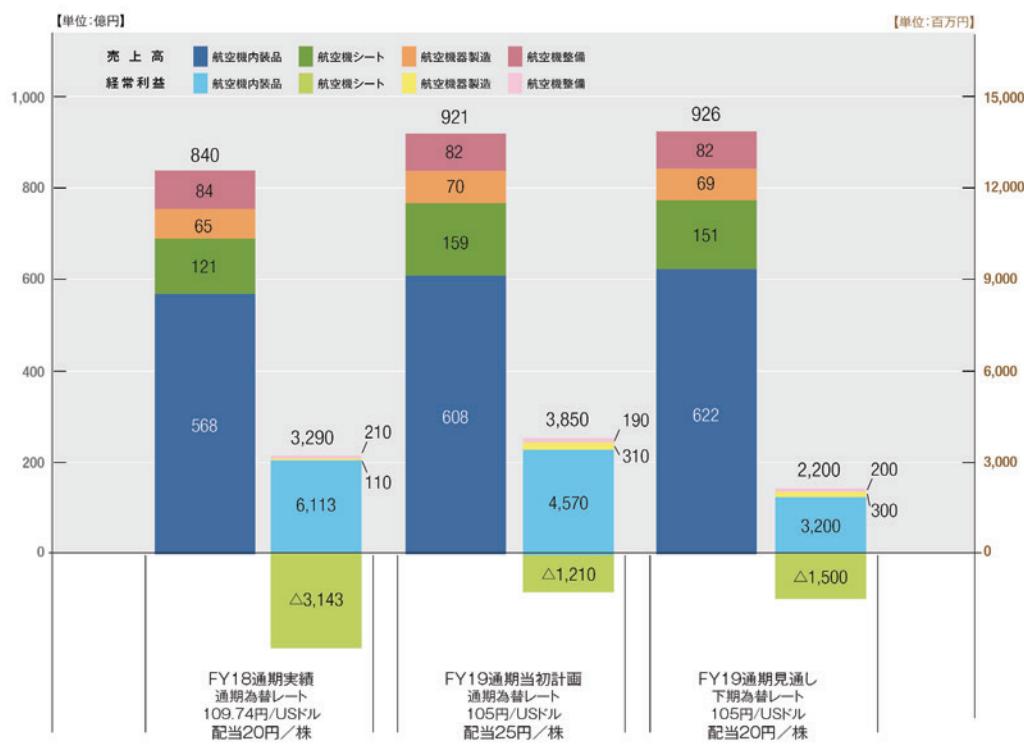
	当社	新潟 ジャムコ	宮崎 ジャムコ	中条 ジャムコ	ジャムコ アメリカ	ジャムコ エアロデザイン エンジニアリング	ジャムコ シンガポール	ジャムコ フィリピン	ジャムコ エアロマニュファクチャリング	徳島 ジャムコ	ジャムコ エアロテック	オレンジ ジャムコ
売上高	36,265	1,716	568	570	9,957	946	690	430	459	355	201	54
営業利益	352	33	67	24	△ 3	46	△ 102	82	△ 24	19	11	1
経常利益	417	42	67	23	△ 63	67	△ 106	78	△ 24	19	12	1
当期純利益	259	32	△ 25	15	△ 42	57	△ 106	56	△ 16	12	7	1

(注1)宮崎ジャムコは品質事案に伴う特別損失を計上

(注2)ジャムコアメリカは初期コスト増加に伴う収益悪化

(注3)ジャムコシンガポールは売上減少に伴う収益悪化

(注4)ジャムコエアロマニュファクチャリングは収益性の良いプログラムの出荷が下期へ繰延べられたことにより収益悪化



JAMCO CORPORATION

PAGE 11

通期見通し

- 11月8日に公表した「通期業績予想及び配当予想の修正について」のとおり、通期業績予想を下方修正。
- 売上高は、航空機内装品等製造関連・航空機シート等製造関連における品質事案への対応により、上期において一部製品の出荷に遅延が発生したが、下期から出荷が進み、回復することを予想。注文の取り消し、リコール事案は発生していない。
- 利益は、上期までに発生した品質事案への対応に伴う追加費用の影響や、一部プログラムのコスト増加による工事損失引当金の追加などから減益が見込まれる。
- 通期業績予想の前提となる下期以降の為替レートは105円／米ドルから変更なし。
- 今期末の配当予想は、業績予想の修正の他、配当性向などを総合的に勘案し25円から20円に変更。

重要項目と課題進捗

- 13 | 中期ビジョン
- 14 | 中期の課題と対応
- 15 | 中期課題の進捗-①
- 16 | 中期課題の進捗-②
- 17 | 中期課題の進捗-③

SECTION

2

中期ビジョン

- 航空機分野に特化し、内装品事業を基軸に、機器製造、航空機整備の能力を集約し、航空機内装品のリーディング・カンパニーとなる

中期経営指標

- 収益性指標：連結経常利益率 7%以上
- 効率性指標：連結ROA 7%以上
- 配当方針：連結配当性向20~30%を目安とする

重要項目と課題進捗

当社グループでは、この度の品質事案を重く受け止め、「品質第一へのコミットメント」と「コンプライアンス遵守」が会社存続と発展の礎であることを改めて銘記し、企業文化・組織風土の再構築を強い意志をもって推進し、信頼回復へ向けて全力で取り組んでまいります。

また、業務プロセスの改革、新規分野への投資及び人財育成を継続・発展させ、更なる成長を目指してまいります。

航空機内装品

- ① 航空機メーカーとの長期安定契約の確実な更新と次期新型機向け内装品の新規契約確保への取組みを強化
- ② 収益改善に向けて既存の主力内装品のコストダウンを推し進めると共に、エアラインが求める独自仕様の製品やレトロフィット(客室改修)の受注拡大
- ③ 品質・コスト・リードタイムをより一層改善すると共に、技術部門の設計開発プロセスの改善を進めて競争力を向上
- ④ 海外拠点の戦略的再編を進め、応需能力の拡大を図ると共に、為替変動リスクに対応

航空機シート

- ① スタンダード・シートの開発・販売を強化することにより、効率の良い開発への移行と製造プロセスの改善を促進し、安定収益化
- ② 次期スタンダード・シートへの投資と魅力的な製品開発を進め、継続的な成長戦略を策定して事業を推進
- ③ グループサプライチェーンの連携強化を図り、生産効率を向上

航空機器製造

- ① 技術的付加価値の高い製品の受注拡大を図り、競争力を強化
- ② 設計製造能力の向上を図り、提案型の新たな製品開発により事業領域拡大を推進
- ③ 機器製造の技術力を内装品事業・シート事業へ適用しシナジー効果を発揮

航空機整備

- ① 飛行安全の確保と品質保証体制のたゆまぬ強化
- ② 付加価値の高い新たなビジネスへの取組みを強化
- ③ 安定した収益を上げることのできる事業基盤を構築
- ④ 整備事業を通じて得た情報を内装品・シート・機器製造事業へフィードバックすることで、グループ経営におけるシナジー効果を発揮

品質事案への対応

航空機内装品、航空機シートにて発生した不適切な品質事案に関し、出荷済み製品の安全性の確認を完了し、現在、第三者による特別調査委員会の提言も踏まえ、以下の再発防止策を推進中。

- 安全意識の再徹底及びコンプライアンス教育の実施
- 安全管理体制の抜本的な見直し
(安全推進部の新設、職場アドバイザーの配置、ダイレクト・トーク、グループ・ミーティングの開催、意見箱の設置等)
- 業務実施体制の抜本的な見直し
(資源管理体制の見直し、教育管理体制の強化、品質内部監査の強化、品質管理体制の強化等)

中期課題の進捗-①

航空機内装品・航空機シートにて発生した品質事案は、出荷済み製品について、安全性に問題がないことが確認できている。現在は、第三者による特別調査員会の提言も踏まえ、以下の再発防止策を推進している。

- 安全意識の再徹底及びコンプライアンス意識の向上を目的とした再教育を実施。
今後も定期的な教育を行っていく。
- 安全に影響を及ぼす事案の的確な把握と必要な処置を講じるために管理体制を見直し、安全推進部を新設し、職場アドバイザーを配置することで現場の声を吸い上げる。
風通しを良くするために役員と従業員の「ダイレクト・トーク」、職場における「グループ・ミーティング」、「意見箱」を導入。
- 業務実施体制の抜本的な見直しとして、資源管理体制の見直し、教育管理体制の強化、品質内部監査の強化、品質管理体制の強化等をすすめていく。

航空機内装品

受注拡大への取組み

- 魅力ある製品開発として次期ラバトリーのコンセプトモデルを製作し、Aircraft Interiors Expo 2020に展示予定

設計開発プロセスの改善

- 3Dモデルをベースにした設計開発・製造のプロセス構築を開始

QCD(Q:品質、C:コスト、D:納期)のさらなる向上

- 品質管理の強化
- 生産量増加に応じた新たな委託先の開拓等のサプライチェーンの増強及び最適化

グループサプライチェーンの連携強化、生産効率向上

- グループ会社への内製化の推進 ● 委託先のキャパシティ管理を強化

航空機シート

スタンダード・シートの開発・販売を強化

- ボーイング787型機向け「Venture」初出荷
- 新規顧客の受注を獲得
- 既存スタンダード・シートVentureの派生バージョンを開発中



スタンダード・シート「Venture」

効率の良い開発への移行

- モジュラーデザインの導入

次期スタンダード・シート

- 既存スタンダード・シートVentureのプラットフォームを標準として、次期シートへ展開

中期課題の進捗-② 航空機内装品

航空機内装品事業

- 主要顧客であるボーイングへのラバトリー供給は、1979年の767型機に始まり、今年で初納入から40年目を迎える。さらに魅力ある製品を開発すべく、次期ラバトリーのコンセプトモデルの製作をすすめている。来年開催予定のエアクラフト・インテリア・エキスポ2020にて発表する準備を行っている。
- 設計開発プロセスを改善するため、3Dモデルをベースとした設計開発・製造のプロセス構築を開始。
- QCDのさらなる向上のために、品質管理の強化を進めると共に、生産量増加に応じた新たな委託先の開拓等、サプライチェーンの増強と最適化をすすめる。
- グループ会社への内製化を推進し、グループサプライチェーンの連携強化をすすめるとともに、委託先のキャパシティ管理を強化し、生産効率の向上を図っていく。

中期課題の進捗-② 航空機シート

航空機シート事業

- 本年、KLMオランダ航空のボーイング787型機向けスタンダード・シート「Venture」を初出荷。更に、エア・ヨーロッパ社をはじめ数社からも受注している。
- 「Venture」は、標準プラットフォームの活用とモジュラーデザインの導入により、多くのエアラインに向けた販売を目指している今後の主力製品。
- Ventureのプラットフォームをベースにした、次期スタンダードシートの開発を進めていく。

航空機器製造

受注拡大、競争力強化

- 機体構造部品への熱可塑CFRP活用の研究開発
- 次期基幹ロケット用エンジン部品の初回品納入

収益性の向上

- エンジン向け製品及び炭素繊維構造部材の生産性向上

シナジー効果

- 機械加工技術を活かし内装品部品の供給を開始

航空機整備

飛行安全

- 独立行政法人航空大学校より安全褒賞を受賞



事業領域見直し、合理化、新規ビジネス

- 伊丹空港にてANA Q400の夜間定例ライン整備を受託
- 緊急脱出スライド用窒素ボトルの整備開始

中期課題の進捗-③ 航空機器製造

航空機器製造事業

- 機体構造部品への熱可塑 CFRP (Carbon Fiber Reinforced Plastics) 活用に向けた研究開発を進めている。
- 次期基幹ロケット用エンジン部品の初回品の納入が完了。引き続き、試験用エンジン部品を製造し、2021年からの量産に向けて準備を行っている。
- 収益性の向上については、良品質と生産性の改善を引き続き推進している。
- これまで培ってきた機械加工技術を活かし、当社内装品用部品の内製化を実現し、シナジー効果を発揮している。

中期課題の進捗-③ 航空機整備

航空機整備事業

- 航空機整備は、空の安全を守ることを第一に、引き続き高品質のサービスの提供に注力していく。
- 本年7月には、訓練機保守業務において、安全業務に寄与したことで独立行政法人航空大学校より表彰された。
- エアライン向けライン整備ビジネスの強化の一環として、4月より伊丹空港に支所を開設し、ANA様よりボンバルディアQ400型機の運航整備を受託した。
- 航空機のコックピットやキャビンに搭載される非常用高圧ガスボトルの整備事業に加え、本年から緊急脱出スライド用窒素ボトルの整備も開始する等、付加価値の高い事業の拡大を進めている。